

専攻実習 I

講師名	有馬 宏	実務経験等	農業改良普及センター・農業研究センターでの普及指導員・専門研究員としての経験を活かし、野菜栽培や農業機械の知識と技術を習得するための実習を行う。
-----	------	-------	--

科目区分	学科・経営科	必修・選択 (必修、自由)区分	履修 学年	開講 学期	標準 時間	単位数
農産園芸学科・専門科目	農産園芸・野菜	必修	1	通年	360	8
使用教科書・副教材	平成31年度岩手県野菜栽培技術指針(岩手県)、新版 野菜栽培の基礎(農文協)、野菜づくり大辞典(成美堂出版)、図解でよくわかる植物工場のきほん(誠文堂新光社)等					
授業の目的	野菜栽培・農業機械などの知識や技術を体験的に習得し、卒業研究に対する理解や意識を高める。					
授業の到達目標	野菜の栽培技術が習得され、適切な管理ができるようになる。卒業研究の目的や調査手法などを理解し、卒業研究計画や作業計画を作成する。					

月	学習項目	学 習 事 項	時間	授業 形式	備 考 (提出物等)
4	ガイダンス	実習を行う露地ほ場、ハウス、付帯施設を確認する。(4/10)	2	講義	
4~7	育苗管理技術	野菜の育苗管理技術を習得する。	14	講義 実習	
	専門用語の習得、圃場の準備	栽培専門用語を確認する。肥料散布、マルチングなど一連の圃場準備作業を習得する。	28	講義 実習	
4~10	野菜の生育診断・病害虫診断	主要野菜の病害虫被害や生理障害の診断技術について理解する。	10	講義 実習	
4~11	果菜類の栽培管理技術	定植、整枝、収穫、調製作業などの栽培管理技術を習得する。	74	講義 実習	
	ASIAGAP	大玉トマト栽培を主としてGAPの仕組みを学びながら演習に取り入れ、その取り組みについて理解する。(各月1回) また、審査対応に向けた取り組みを行う。(10月)			
4~11	葉根菜類の栽培管理技術	播種、定植、間引き、培土、収穫、調整作業などの栽培管理技術を習得する。	48	講義 実習	
5~10	農業機械の運転操作	野菜生産に関わる農作業機械のほ場運転操作を習得し、安全操作技術を理解する。	16	実習	
6	卒業研究の検討	2年生の卒業研究現地検討会に参加し、その目的や調査結果、考察を理解する。(6/29)	4	講義	
6~2	果菜類の環境制御技術	環境制御型温室(果菜類)の栽培管理技術を習得する。	18	講義 実習	
8~12	野菜の調査研究	農大祭などに出品する野菜を調査研究することにより調査・分析方法を理解する。	24	講義 実習	提出物 (実習記録)
9	卒業研究の検討	2年生の卒業研究現地検討会に参加し、調査結果や考察を理解する。(9/7)	4	講義	
11~2	冬春野菜の栽培管理技術	冬春野菜の種類や作型を理解し、収穫、調製技術を習得する。	12	講義 実習	
12~3	卒業研究の計画作成	次年度の卒業研究計画を作成する。	72	講義 実習	提出物 (実習記録)
3	卒業研究の計画発表、栽培準備	卒業研究設計書を完成させ、発表する。(3/11)計画に基づき栽培準備を行う。	36	講義 実習	
合計			360	時間	

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)

技術の習熟度、提出物の内容、出席状況、受講態度により評価する。
評価割合: 習熟点60%(技術の習熟度、提出物)、平常点40%(出席状況、受講態度)

履修に当たっての留意点等

上記の実習計画はあくまでも目安であり、野菜の生育状況などにより実施時期が変更になったり、同一内容の作業を異なる作型で繰り返し行う場合がある。また、天候などの事情により、ほ場での実習を教室での授業に変更する場合がある。実習には作業着、作業手袋、帽子、長靴を着用する。また、天候に応じて雨具や防寒具を着用する。